

第36課 準備のための聖書日課

11月28日(月) ルカ1:1-4 確実な教えを伝えるために

1-2わたしたちの間で実現した事柄について、最初から目撃して御言葉のために働いた人々がわたしたちに伝えたとおりに、物語を書き連ねようと、多くの人々が既に手を着けています。3そこで、敬愛するテオフィロさま、わたしもすべての事を初めから詳しく調べていますので、順序正しく書いてあなたに献呈するのがよいと思いました。4お受けになった教えが確実なものであることを、よく分かっていただきたいのであります。

マタイ福音書はイエス・キリストの系図、マルコ福音書は神の子イエス・キリストの福音の初めという表題、ヨハネ福音書は言葉に関するプロローグ、によって始められているのに対して、ルカ福音書は献呈の言葉という序文によって始められています。テオフィロという具体的な人物に語りかけていますが、これは困難が伴う中で多くの人が記録や情報を綿密に調査し順序立てて書いたこの福音書の世界へと、このテオフィロを通して私たちがいざなっているようです。ルカは使徒たちが宣教する主イエスのことをより理解するようという願いを込めて福音書を書いたのです。

11月29日(火) フィリピ2:12-18 非のうちどころのない者

12だから、わたしの愛する人たち、いつも従順であったように、わたしが共にいるときだけでなく、いない今はなおさら従順でいて、恐れおののきつつ自分の救いを達成するように努めなさい。13あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。14何事も、不平や理屈を言わずに行いなさい。15そうすれば、とがめられるところのない清い者となり、よこしまな曲がった時代の中で、非のうちどころのない神の子として、世にあって星のように輝き、16命の言葉をしっかり保つでしょう。こうしてわたしは、自分が走ったことが無駄でなく、労苦したことも無駄ではなかったと、キリストの日に誇ることができるでしょう。17更に、信仰に基づいてあなたがたがいけにえを献げ、礼拝を行う際に、たとえわたしの血が注がれるとしても、わたしは喜びます。あなたがた一同と共に喜びます。18同様に、あなたがたも喜ばなさい。わたしと一緒に喜ばなさい。

パウロは「だから」と言っています。これは、主イエスが人としてこの世に来られ、十字架と復活のみわざを通して救いへと導いてくださったのだから、恐れおののきつつ神への従順な信仰で救いを達成するように努めよ、ということです。私たちは不平や理屈をこねる態度をとってしまうことも時にはあります。過ちに気づいたら「神さまごめんなさい」と、主に立ち返り、命の言葉(福音)で心を満たしていただけるよう祈りましょう。

11月30日(水) ルカ24:22-27 天使の言葉に対する不信

22ところが、仲間の婦人たちがわたしたちを驚かせました。婦人たちは朝早く墓へ行きましたが、23遺体を見つけずに戻って来ました。そして、天使たちが現れ、『イエスは生きておられる』と告げたと言うのです。24仲間の者が何人か墓へ行って見たのですが、婦人たちが言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした。」25そこで、イエスは言われた。「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち、26メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか。」27そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された。

どんなにイエスさまの方から近づいてくださっても、私たちに信仰がなければイエスさまに出会うことも知ることもできません。そんな私たちに「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く、信じられない者たち」と言われます。しかし、これは叱っているのではなく、物分かりが悪く心が鈍く不信仰な私たちを教え導きご自分に合わせるために言われたのです。そして私たちが永遠の命の道へと歩めるよう今も導いてくださっています。

12月1日(木) 使徒26:19-23 天の示しに応えて

19「アグリッパ王よ、こういう次第で、私は天から示されたことに背かず、20ダマスコにいる人々を初めとして、エルサレムの人々とユダヤ全土の人々、そして異邦人に対して、悔い改めて神に立ち帰り、悔い改めにふさわしい行いをするようにと伝えました。21そのためにユダヤ人たちは、神殿の境内にいた私を捕らえて殺そうとしたのです。22ところで、私は神からの助けを今日までいただいて、固く立ち、小さな者にも大きな者にも証しをしてきましたが、預言者たちやモーセが必ず起こると語ったこと以外には、何一つ述べていません。23つまり私は、メシアが苦しみを受け、また、死者の中から最初に復活して、民にも異邦人にも光を語り告げることになると述べたのです。」

パウロがダマスコをはじめ、エルサレムの人々、またユダヤ全土に、更には異邦人にまで、悔い改めて神に立ち返るよう宣べ伝えてきたのは、天からの啓示だったからです。しかし今、日本においては、忙しい、宗教に関心がない、楽しみや興味をそそることが多い、仏教や神道が根強い…などのため真の光であられる主イエスに出会うチャンスを逃している人がたくさんいます。

「すべての人に“何もかも”はできなくても、誰かに“何か”はきっとできる」(ボブ・ピアス) まずは目の前にいる人に救いが訪れるよう祈りに覚えていきましょう。

12月2日(金) イザヤ49:14-21 主は忘れない

14シオンは言う。

主はわたしを見捨てられた

わたしの主はわたしを忘れられた、と。

15女が自分の乳飲み子を忘れるであろうか。

母親が自分の産んだ子を憐れまないであろうか。

たとえ、女たちが忘れようとも

わたしがあなたを忘れることは決してない。

16 見よ、わたしはあなたを

わたしの手のひらに刻みつける。

あなたの城壁は常にわたしの前にある。

17 あなたを破壊した者は速やかに来たが

あなたを建てる者は更に速やかに来る。

あなたを廃虚とした者はあなたを去る。

18 目を上げて、見渡すがよい。

彼らはすべて集められ、あなたのもとに来る。

わたしは生きている、と主は言われる。

あなたは彼らのすべてを飾りのように身にまとい

花嫁の帯のように結ぶであろう。

19 破壊され、廃虚となり、荒れ果てたあなたの地は

彼らを住まわせるには狭くなる。

あなたを征服した者は、遠くへ去った。

20 あなたが失ったと思った子らは

再びあなたの耳に言うであろう

場所が狭すぎます、住む所を与えてください、と。

21 あなたは心に言うであろう

誰がこの子らを産んでわたしに与えてくれたのか

わたしは子を失い、もはや子を産めない身で

捕らえられ、追放された者なのに

誰がこれらの子を育ててくれたのか

見よ、わたしはただひとり残されていたのに

この子らはどこにいたのか、と。

イスラエルの民は「主は私を見捨てた、主は私を忘れた」と言います。神は「女が自分の乳飲み子を忘れようか。たとい女たちが忘れてもわたしはあなたを忘れない」と語られます。手のひらにあなたを刻んだとも言われます。イスラエルの民の名は神の手のひらに刻まれ、それが消えることはないのです。私たちは神さまのこの言葉をそのまま信じ受け取ればよいのです。

12月3日（土）マラキ3：19－24 預言者エリヤと主の日

19 見よ、その日が来る

炉のように燃える日が。

高慢な者、悪を行う者は

すべてわらのようになる。

到来するその日は、と万軍の主は言われる。

彼らを燃え上がらせ、根も枝も残さない。

20 しかし、わが名を畏れ敬うあなたたちには

義の太陽が昇る。

その翼にはいやす力がある。

あなたたちは牛舎の子牛のように

躍り出て跳び回る。

21 わたしが備えているその日に

あなたたちは神に逆らう者を踏みつける。

彼らは足の下で灰になる、と万軍の主は言われる。

22 わが僕モーセの教えを思い起こせ。

わたしは彼に、全イスラエルのため

ホレブで掟と定めを命じておいた。

23 見よ、わたしは

大いなる恐るべき主の日が来る前に

預言者エリヤをあなたたちに遣わす。

24 彼は父の心を子に

子の心を父に向けさせる。

わたしが来て、破滅をもって

この地を撃つことがないように。

マラキはバビロン捕囚時代に活動した預言者です。すべてを奪われて異国バビロンの捕囚となった人々に神の言葉を伝え続けました。「神に仕えて戒めを守ってもむなしい。何の益があろうか。」

(3：14) 人々のこういうつぶやきを受けてマラキは、主を畏れ敬う民の上には義の太陽（栄光）が昇って、その翼にはいやす力があると語ります。また神はすでにその日（主の日）を備えており「悪を行う者」と「主を畏れ敬う者」の区別を見ると明言しています。

12月4日（日）ルカ1：5－25 ヨハネ誕生の約束

5 ユダヤの王ヘロデの時代、アビヤ組の祭司にザカリアという人がいた。その妻はアロン家の娘の一人

で、名をエリサベトと叫んだ。6 二人とも神の前に正しい人で、主の掟と定めをすべて守り、非の

うちどころがなかった。7しかし、エリサベトは不妊の女だったので、彼らには、子供がなく、二人とも既に年をとっていた。8さて、ザカリアは自分の組が当番で、神の御前で祭司の務めをしていたとき、9祭司職のしきたりによってくじを引いたところ、主の聖所に入って香をたくことになった。10香をたいている間、大勢の民衆が皆外で祈っていた。11すると、主の天使が現れ、香壇の右に立った。12ザカリアはそれを見て不安になり、恐怖の念に襲われた。13天使は言った。「恐れることはない。ザカリア、あなたの願いは聞き入れられた。あなたの妻エリサベトは男の子を産む。その子をヨハネと名付けなさい。14その子はあなたにとって喜びとなり、楽しみとなる。多くの人もその誕生を喜ぶ。15彼は主の御前に偉大な人になり、ぶどう酒や強い酒を飲まず、既に母の胎にいるときから聖霊に満たされていて、16イスラエルの多くの子らをその神である主のもとに立ち帰らせる。17彼はエリヤの霊と力で主に先立って行き、父の心を子に向けさせ、逆らう者に正しい人の分別を持たせて、準備のできた民を主のために用意する。」18そこで、ザカリアは天使に言った。「何によって、わたしはそれを知ることができるのでしょうか。わたしは老人ですし、妻も年をとっています。」19天使は答えた。「わたしはガブリエル、神の前に立つ者。あなたに話しかけて、この喜ばしい知らせを伝えるために遣わされたのである。20あなたは口が利けなくなり、この事の起こる日まで話すことができなくなる。時が来れば実現するわたしの言葉を信じなかったからである。」21民衆はザカリアを待っていた。そして、彼が聖所で手間取るのを、不思議に思っていた。22ザカリアはやっと出て来たけれども、話すことができなかった。そこで、人々は彼が聖所で幻を見たのだと悟った。ザカリアは身振りで示すだけで、口が利けないままだった。23やがて、務めの期間が終わって自分の家に帰った。24その後、妻エリサベトは身ごもって、五か月の間身を隠していた。そして、こう言った。25「主は今こそ、こうして、わたしに目を留め、人々の間からわたしの恥を取り去ってくださいました。」

祭司職に就いていたザカリアでしたが子どもが生まれると告げられたとき、すぐに信じることができませんでした。何によってそれを知ることができるのかと、しるしを求めたザカリアは子どもが誕生するまで口がきけなくなってしまう。信じなかったことに対して罰を与えられたように見えますが、これは自らの想いを内側にしまって、心を静め委ねなさいと「沈黙して待つ」という時が与えられたのです。クリスマスを待ち望むこの時、その先駆けとなったヨハネ誕生の物語も心にとめてアドベント第2週を心豊かに過ごせますように。

(担当 : N.U.)